の記錄をそのまゝに採用した所と、新に書き足した所とによりて生じて來た相違で、要するに同一義に外ならぬ。陳氏は「未造祆字以前、諸書悉以天神二字代用、既有祆而後、諸史西域傳悉用祆字、不復稱天神矣、其仍稱天神者、必別有所指非火祆也云々」というて居るが、必しもかく斷定し難き事は、茲に擧げた所でも知り得ることであらう。高昌の天神といふものが祆神に外ならざることについては、辯を用ゐるにも及ぶまい。それで祆といふ字は天に示を附け加へた丈けのものでこれによりて天の神の義を表はし、そうして特に西域の天神を示そうとしたものに外ならぬことは前賢の說を待つまでもなく、甚だ了り易い所である。茲に於てか此の字に集韻や類編などの與へた他年の切、天の音あるべきは極めて自然の事と見なければならぬ。然らば何故に別に之に khien の音が存するかといふと、之は天 t'ien の一種の方音に外ならぬのであつて、集韻の馨煙切の祆字下に[9]「關中謂爲祆」とあるのは、天を當時關中地方の音では祆 khien といふたことを示したに外ならぬ。今日でも陳氏が「今粵中天字亦有呼煙切如吾鄉新會及西江一帶各縣是也」というて居る通り、かゝる方音の相違は認め得られるし、またずつと古い時代にも然りしことは、杭世駿の續方言に、「天豫司兗冀以舌腹言之、天顯也、在上高顯也、青徐以舌頭言之、天坦也、坦然而遠也」として、劉熙の釋名を引用して居るによりても知り得られやう。要するに言語學者の說く kh,s,t, 等の音の間に於る轉音の現象に過ぎぬのであつて、天竺と賢毒、乾毒等とが同一名を寫せるに過ぎぬのと同樣の例である。漢書西域傳無雷國の條の捐毒に註して、顏師古が「捐毒卽身毒天篤也、本皆一名語有輕重耳」というて居るのも、此等の捐、身、天等の間に於る轉音の關係を認めたものに外ならぬ。論者或は希麟の音義に「方言云、本胡地多事於天、謂天爲祆、因以作字」とあり、集韻、類編六書統等に、「胡謂神爲祆」[10]とあるに基いて、祆